

特集：衣食住から考える地理



表紙写真① 聖体祭の行列（イタリア・トレンティノ＝アルトアディジェ州
コルタッチャ・スツラ・ストラータ・デル・ヴィーノ）
カトリックの地域では、6月の聖体祭の日には聖体行列が行われる。この町はイタリア最北部の南ティロル地方に位置し、ドイツ語の話者が人口の9割以上を占める。そのため、ディアンデルと呼ばれるドイツ南部・ティロル地方の民族衣装を身にまとっている。（©Loren Image / Dreamstime.com）



表紙写真② ぶどう畑と集落（イタリア・トレンティノ＝アルトアディジェ州
コルタッチャ・スツラ・ストラータ・デル・ヴィーノ）
アルプス南麓の氷河地形の斜面を利用し、ワイン向けのぶどうが多く生産されている。ワインのラベルはイタリア語の「Cortaccia」ではなくドイツ語の「Kurtatsch」で表記される。家屋もティロル地方と共通した木造のものが多い。（©Andreas Bucher / Alamy）



[特集] 衣食住から考える地理	
02	暑い地域の民族衣装 村上 佳代
04	アフリカの豆料理 ～各地のフィールドワークから～ 長谷川 清美
06	住文化の多様性と地理的アプローチ 高野 岳彦
[実践報告]	
10	世界史とコラボした地理の授業づくり 金田 啓珠
12	宮崎はうどん県？ ～宮崎うどんのルーツを探る～ 河野 智也
[連載]	
14	新連載：地理で「考える」授業をつくる ① 「問いかけ」と「考える場」をつくる 生田 清人
15	新連載：日本縦断・地理院地図の旅 ① 舟運が生んだ川中分水界 ～兵庫県丹波篠山市～ 二宮書店編集部
16	授業に役立つ自然地理 ⑤⑧ 潮と大地はなぜ渦巻く？ ～淡路島の活断層～ 松本 穂高
18	新連載：いとちりの防災教育にGIS SERIES 2-1 「地理総合」の3つの柱と3つのステージ 伊藤 智章
20	新・地理屋のスキルノート ⑬ WebGISで作図に触れさせよう 田中 隆志

防災教育に

いっしょの

GIS Geographic Information System SERIES 2-1

第1回

「地理総合」の3つの柱と3つのステージ

静岡県立裾野高等学校 伊藤 智章

はじめに

2022年度から実施される高校地理の必修科目「地理総合」。いよいよ実施に向けたカウントダウンが始まりました。約30年ぶりの再必修化で、高校地理教員としては「ようやく…」という思いがある一方で、「大丈夫かな…？」という心配もあります。

今回、編集部から「防災教育にGIS」シリーズの続編のお話を頂きました。全国津々浦々の地形と暮らしについてデジタル地図を使って紹介して行きますが、連載を始めるにあたり、「地理総合」でその扱いが大きなウエイトを占めることになった「GIS」と「防災」の位置づけを確認し、その中で本連載を位置づけてみたいと思います。

1. 「地理総合」で何が変わるのか？

図1は、現行の「地理A」および「地理B」と、新課程の「地理総合」の単元の比較です。「地理総合」は、「地理A」の内容を引き継いでいる部分が多く見られます。しかし、「地理A」の授業の中で多くの部分を占めてきた、世界地誌の単元「現代世界の特色と諸課題の考察」が無くなり、「地図や地理情報システム」が最初の単元に置かれ、「学習の冒頭に当たり、以降の学習の基盤となるよう」（文部科学省：2018、17p）に位置づけられるなど、大きく変わった部分もあります。

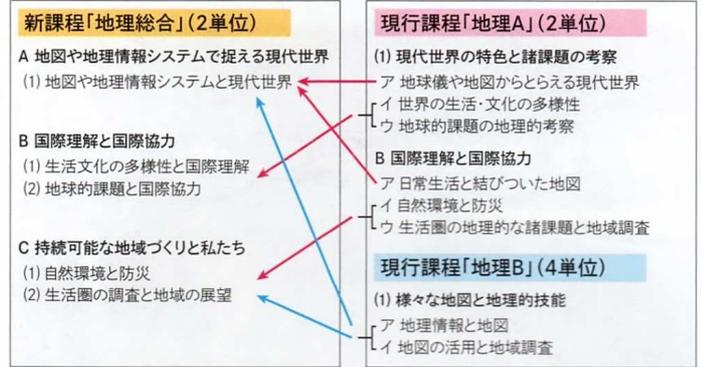


図1 「地理総合」の単元に対応する現行学習指導要領の単元 (文部科学省資料を改変)

2. 新学習指導要領の「3つの柱」 地理総合の「3つのステージ」

新学習指導要領には、各教科・科目の共通の土台となる「3つの柱」があります。すなわち、①「何を理解しているか、何ができるか」(生きて働く「知識・技能」の習得)、②「理解していること・できることをどう使うか」(未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成)、③「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」(学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養)の3つです。「3つの柱」の上に各教科・科目の目標があり、その上に学習単元が置かれています。

「3つの柱」の上に、「地理総合」で学ぶ各単元を乗せると、図2のような形になります。

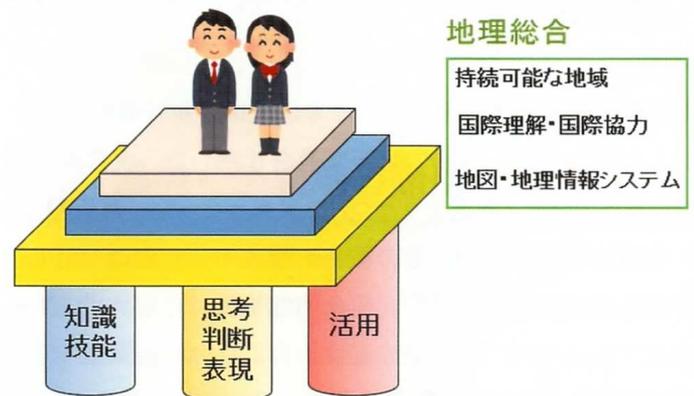


図2 「3つの柱」と「3つのステージ」の関係① (筆者作成)

最も土台に近い基礎の部分に「A 地図や地理情報システムで捉える現代世界」があり、その上の段に「B 国際理解と国際協力」が、一番上の段に「C 持続可能な地域づくりと私たち」があります。授業で扱う順番も学習指導要領で定められており、特に「A 地図や地理情報システム」は、地理総合の授業の始めに扱うことを求めています。地図や地理情報システムは、学習指導要領の「3つの柱」の理念と高校地理の各単元の学習をつなぐ基盤であり、各単元の学習が依って立つ土台です。

3. 「地理総合」の理想と現実

ただ、現行の「地理 A」や「地理 B」における地理情報システムの利用状況や、「地理 A」における「自然環境と防災」の扱いを鑑みると、「地理総合」で掲げる理想を実現させるためには、まだまだ相当な努力が必要です。図3は、現行の指導要領下での地理情報システムや防災の扱いのまま「地理総合」が行われた場合の模式図です。

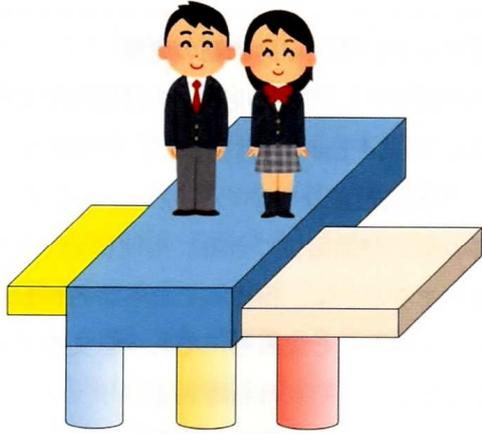


図3 「3つの柱」と「3つのステージ」の関係②（筆者作成）

「地図・地理情報システム」、「国際理解・国際協力」、「持続可能な地域づくり」の各単元が別々に扱われ、相互の重なりはありません。「地図・地理情報システム」を最初にほんの少しだけ取り上げた後、授業の大部分を「国際理解・国際協力」に充て、最後に地形図の読図を中心とした「持続可能な地域」を取り上げる流れは、現行の「地理 A」に準じています。特に「国際理解・国際協力」の単元は、「地理 A」の「現代世界の特色と諸課題の地理的考察」の内容を引き継いでいるという認識を持つ地理プロパー先生は、「とにかく世界地誌を一通り教えなくては」「人口や都市問題、環境問題などを扱うには系統地理的な知識が不可欠だ」という意識（使命感）から、この単元を厚く、細かく扱おうとするかもしれません。逆に、初めて高校地理を担当する先生は「何はともあれ世界地誌をやっておけば大丈夫だろう」あるいは「分担を決めて国調べと発表をさせればいだろう」と、必要以上に多くの時間を割いた上で、学習を生徒任せ（インターネット任せ）にしてしまうかもしれません。

新学習指導要領で基礎・基本として位置付けられている「地図・地理情報システム」を薄く狭く扱い、逆に学習指導要領には書かれていない地誌や系統地理を厚く広くとり、「3つの柱」の上に別々かつ凸凹に乗せても不安定極まりないですし、それ以前に「地理探究」の学習を乗せようと思う生徒も先生も増えない（むしろ減っていく）と思います。

4. 本連載のねらい

「地理総合」は、既存の「地理 A」、「地理 B」とは似て非なる新しい必修科目です。しかし、必ずしもそれが現場に浸透しているとは言えません。もしもこの記事を読まれているあなたが地理の専門の先生でなかったら、あるいは若い地理の先生だったら、身近にいる地理の先生に「先生、「地理総合」ってどんなことをするんですか？」と聞いてみてください。「ああ、必修の2単位ものさ。地理 A みたく地誌をやればいいんだよ」とか、「ああ、総合だの探究だの分かれるけど、うちには関係ないよ。受験で使う生徒は「地理 B」の内容を2年かけてやればいいし、そうでない子は教養の地理ね」というような答えが返ってくるようでしたら、残念ながらその先生の「プロパーの壁」は相当高い（しかもそれを自覚していない）と思ってください。「くっ、なかなか痛いところをつくな」と苦笑されている地理プロパーの先生は、インターネットで簡単に見ることが出来ますので、新学習指導要領の「地理総合」（できれば「地理探究」も）の本文と解説をお読みください。

デジタル地図や位置情報サービスが世の中にあふれ、生徒のスマートフォンからでも簡単にアクセスできます。一方で、大きな災害がこれまで考えられなかった規模や頻度で猛威を振るい、人口減少や地方の衰退など、新たな問題も発生しています。新たな課題を前にして設置される新しい必修科目の前では「プロパー」も「ノンプロパー」もありません。世代や履修歴、専攻を越えた協働によって、高校地理教育の新たな基幹となる科目を作る気概を持つことが必要ではないでしょうか。

これまで、本誌において「いとちりの防災教育に GIS」（2012年4～6月号、Web 地理月報、指導書付属 DVD：全10回）を連載しました。今回は、その第2弾となります¹⁾。

単に「GIS ソフトの使い方を教える」「地形図や空中写真を読んで危ないところを探す」「生徒の身近な地域のみを調べる」といった断片的な授業ではなく、最新の技術や知見に目を配りつつ、生徒に考えるきっかけを提供し、授業が終わった後も使ってみたい、考えてみたい、実際に現場に足を運んでみたいと思えるような教材を提案することで、来たるべき必修「地理総合」の授業に貢献できればと思います。地理のプロパーの先生も、ノンプロパーの先生も、気楽に読んでいただいて、お手元のパソコンやスマホでも地図を眺め、動かして頂ければと思います。

1) 過去の連載記事は、筆者のブログ「いとちり」内で公開しています。

<http://itochiriback.seesaa.net/article/448318475.html>

